

学界情報

国際会議レポート：IECON'06

The 32nd Annual Conference of the IEEE Industrial Electronics Society
November 6-10, 2006, Conservatoire National des Arts et Métiers, Paris, France

11月6日から10日にかけて、IECON'06がフランスのパリで開催された。IECONはIEEE Industrial Electronics Societyの年次大会である。また産業電子機器とそのアプリケーションの分野における世界的なエンジニアリングコミュニティの主なイベントにあたり、今年で32回目となる。会場はパリ市内の主要地区のひとつであるマレ地区にある、1794年に創立された歴史的な趣きのある国立工芸院で行われた。今年の論文投稿数は約1,700件、採択論文は959件であり、採択率は約56%であった。

セッションはオーラルセッションと4つのポスターセッションを含めて131のセッションが行われた。テクニカルプログラムは7つのトラックからなり、トラックの一覧と論文件数を表1に示す。また、テクニカルセッションと平行して22セッションからなるスペシャルセッションも行われた。セッションは、パワエレ分野に当たるモータードライブやコンバータについての投稿数が多いという特徴があった。

今回行われたプレゼンテーションの中では、開催地であるヨーロッパの企業や大学の技術者、研究者の発表が強く印象に残った。Special sessionではパワエレにおける省エネルギーや高効率など環境を考慮した研究発表が多く見られ、これからさらに発展していくであろうパワエレ技術の重要性を改めて感じさせられた。

また、一部のポスターセッションでは午前の部と午後の部に分かれており、オーラルセッションとの両方を聞きやすい形式になっていて、ここでも活発にプレゼンテーションが行われていた。写真1からも討論でにぎわっている会場の様子が見て取れる。筆者もポスターセッションに参加したが、各国の技術者と討論することでたくさんの知識を得ることができ、非常に充実した時間を過ごすことができた。

表1 テクニカルセッション一覧と論文件数

Session	Count
Control Systems & Applications	130
Electrical Machines & Drives	136
Power Electronics	225
Sensors, Actuators and Systems Integration	57
Signal & Image Processing	63
Industrial Informatics	36
Mechatronics & Robotics	69
Total	716

国際会議のツアーは、セーヌ川クルーズであった。エッフェル塔そばからボートに乗り、シテ島を周ってまた戻ってくる1時間ぐらいのコースで、ちょうど夕暮れ時ということもあり徐々にライトアップされた建築物が美しかった。また、パンケットに当たるGala dinnerは会場からは少々離れた場所で開催されたが、出席者は多く、ディナーではラム肉やチーズなどのフランス料理を味わうことができた。

Gala dinnerではIECONの次回開催地の紹介が行われ、ビデオが上映された。開催日は2007年11月5日から8日で、開催場所は台湾の台北である。

小林 貴之・野沢 祐介・山下 幸一

(明治大学大学院理工学研究科電気工学専攻)

(平成19年1月5日受付)



写真1 ポスターセッションの様子



写真2 Gala dinnerの様子